



幸手市マスコットキャラクター
さつちゃん

VOL.13

幸手市文化遺産だより

● 古文書が語る幸手の歴史 - 古文書という文化遺産 -

1



「茶間数 三拾三間」と茶園の長さが書かれている

幸手のお茶づくりの歴史を伝える貴重な古文書（鈴木家文書）

今年度、所蔵者のご好意で市に寄贈された古文書に、「丑之年茶園御改帳」「惣新田茶改帳」という古文書があります。これは、いずれも江戸時代の寛文13年(1673)に作られた帳簿です。当時、惣新田村は、関宿藩領でした。つまり、この帳簿は、関宿藩が茶を年貢として取り立てるため、村内のお茶の栽培状況を調べ上げたもので、約9.3キロメートルに及ぶ「畦畔茶」が栽培されていたことが分かりました。

「畦畔茶」は、畑の境や屋敷廻りに、土の飛散を防ぐため細長く植えられたお茶です。この帳簿にも茶園の長さを示す単位「間」で書き上げ、当時の様子がその測り方からも想像できます。現在、お茶の名産地といえば、埼玉県では狭山茶が、茨城県では猿島茶が有名です。しかし、今から340年ほど前、幸手にお茶づくりの風景があったことを想像してみてください。ふるさとの歴史の中に茶が関係していたことを感じれば、豊かな気持ちになります。

こうして、古文書を調べることで、さまざまな歴史的事実が明らかになります。これが、古文書の持つ素晴らしい力なのです。

《文化財トピックス》

● アルバムの中の“懐かしい”昭和の記録

右の写真は、関口家（北三丁目）が所蔵しているアルバムをお借りしてデジタル化したものです。

それぞれ昭和32年頃のもので、写真①は子どもたちの入浴風景です。当時は家にお風呂があることがまだめずらしく、近所の人がお湯をもらいに来たそうです。写真②はスイカ割り、写真③④はもちつきの様子です。お盆や正月には、親戚中が集まってにぎやかに過ごし、もちつきは現在も続けられています。

社会教育課では、この写真のような懐かしい日常生活の記録なども資料として収集しています。古いアルバムをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声掛けください。



文化遺産保存公開日誌抄

平成26年4月1日～平成27年3月31日

平成26年

- 4. 11 民具資料館除草作業
- 4. 14 民具資料館展示替え作業
- 4. 15 民具資料館清掃作業・見学対応(春の野草研究会)
- 4. 21 資料受領(中1丁目)
- 4. 23 資料受領(北3丁目)
- 5. 8 民具資料館清掃作業及び除草作業(南2丁目)
- 5. 14 新市指定文化財指定書交付
- 5. 15 民具資料館展示替え作業
- 5. 16 東部地区文化財担当者会総会・第1回例会(杉戸町)
- 5. 21 民具資料館展示替え作業
- 5. 23 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会総会(埼玉会館)
- 5. 24 NPO日光街道幸手を感じる会基調講演会講師派遣
- 5. 26 民具資料館展示替え作業
- 5. 28 民具資料館除草・清掃作業
- 5. 29 文化財保護協会評議員会及び研修会(アスカル幸手)
- 5. 30 平成26年度第1回文書調査委員会(埼玉県立文書館)
- 6. 3 埼玉県市町村文化財保護行政主管課長連絡協議会(坂戸市文化会館)
- 6. 4 民具資料館見学対応(市民)
- 6. 16 民具資料館清掃作業
- 6. 19 歴史的公文書収集
- 6.23-27 歴史的公文書収集
- 6. 23 民具資料館整理及び除草作業
- 6. 25 東部地区文化財担当者会民俗部会(宮代町郷土資料館)
- 6. 26 民具資料館見学対応(幸手健康ウォーキング)
- 6. 27 民具資料館見学対応(熊谷市星宮公民館)
- 6. 27 東部地区文化財担当者会第2回例会(八潮市)
- 7. 2 歴史的公文書収集/資料調査(中野)
- 7. 3 資料館整備関係打合せ
- 7. 6 市指定文化財高須賀大杉ばやし調査(高須賀)
- 7. 13 市指定文化財千塚ささら獅子舞・松石ささら獅子舞調査(千塚・松石)
- 7. 20 民俗行事調査(権現堂新田オシシサマの祭り)
- 7. 23 東部地区文化財担当者会民俗部会(宮代町郷土資料館)
- 7. 24 民具調査(長倉小学校)
- 7. 25 民具資料館展示替え作業
- 7. 28 民具資料館除草作業
- 7.29-30 教員5年次経験者研修(社会貢献活動)受入(資料室)
- 8.1-3 民具資料館一般公開
- 8. 4 民具資料館消防点検/教員初任者研修受入(民具資料館)
- 8. 5 市内文化財めぐり案内(幸手市教育研究会)/文化財現地聞き取り調査(上吉羽)
- 8. 7 榎野地発掘現場視察/寄贈資料受領
- 8. 23 第12回市史講座①(市役所)
- 8. 27 ガラスケース受領/市指定文化財案内板設置
- 8. 30 第12回市史講座②(市役所)

- 9. 2 資料閲覧者対応(資料室)
- 9. 19 資料寄贈者対応(資料室)
- 10. 4 榎野地北遺跡現地説明会
- 10. 17 民具資料館清掃作業/民具資料館見学対応(行幸小学校)
- 10. 23 平成26年度第1回幸手市文化財保護審議会(市役所)
- 11. 6 民具資料館一般公開準備作業
- 11.7-9 民具資料館一般公開
- 11. 12 国宝・重要文化財(美術工芸品)の防災・防犯対策研修会
- 11. 21 西中学校総合学習対応
- 11. 25 民具資料館見学対応(上高野小学校)
- 11. 28 西中学校総合学習対応
- 12. 2 埋蔵文化財包蔵地内における工事立会
- 12. 3 民具資料館見学対応(長倉小学校)
- 12. 12 民具資料館管理作業/民具資料館見学対応(市民)
- 12. 18 資料調査(中1丁目)
- 12. 22 資料受領(神扇)

平成27年

- 1. 8 民具資料館見学対応(市民)
- 1. 13 試掘調査(駅西口予定地内)
- 1. 16 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会視察研修会(東京)
- 1. 19 民具資料館清掃作業
- 1. 20 民具資料館見学対応(権現堂川小学校)
- 1. 23 民具資料館見学対応(幸手小学校)/資料提供者対応
- 1. 26 久喜工業高校インターンシップ(就業体験実習)受入
- 1. 27 移転準備作業
- 2. 2 民具資料館消防点検
- 2. 3 資料等運搬作業準備
- 2. 6 民具資料館見学対応準備/資料等運搬作業準備
- 2. 9 民具資料館見学対応(八代小学校)/資料等運搬業務打合せ
- 2. 10 資料等運搬業務打合せ
- 2.16-25 資料室移転作業
- 3. 9 平成26年度第2回幸手市文化財保護審議会(資料室)
- 3. 13 全日本年金者組合支部会議講演会講師派遣(勤労福祉会館)
- 3. 19 文化財現地確認調査(天神島)
- 3. 23 民具資料館見学対応(幸手歴史愛好会)

幸手市文化遺産だより 第13号

平成28年3月1日発行
編集：幸手市教育委員会 社会教育課
〒340-0192 幸手市東4-6-8
TEL 0480-43-1111 内線644
発行：幸手市教育委員会

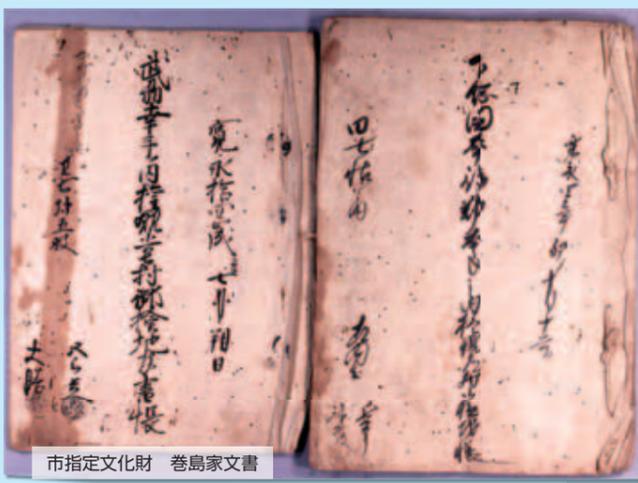


幸手には、古文書が数多く残されています。こうした古文書は、江戸時代には名主や組頭などの村役人、明治時代以降は戸長や村長などを勤めた旧家に伝えられています。平成13年に完了した幸手市史編さん事業では、市域に残る古文書の調査を行い、その一部を本に掲載して『幸手市史』を刊行しました。つまり、古文書なくして市史編さん事業はできませんでした。

長い年月を経て、今に伝えられた古文書は、いうまでもなく貴重な文化遺産といえます。いわゆる「くずし字」で何が書いてあるのかさっぱり読めないから興味がない、と敬遠されがちな「こもんじょ」ですが、今回は市域に伝えられた古文書をとおして、幸手の歴史を紹介したいと思います。

幸手が下総国から武蔵国に変わったことを示す江戸時代初めの検地帳（巻島家文書）

検地は、領主が田畑や屋敷の土地とそれを所持する農民を把握するために実施した土地調査。ここに掲載した権現堂村の検地帳は、右が寛永4年(1627)に作成された「下総国幸嶋郡幸手之内権現堂村御検地帳」、左がその10年後の寛永14年(1637)に作成された「武州幸手ノ内権現堂村御検地方書帳」。つまり、この10年の間に幸手が下総国から武蔵国に編入された重要な情報を伝えている。

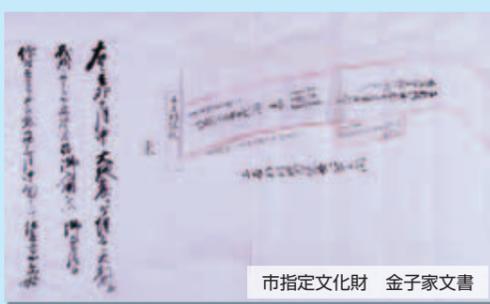


市指定文化財 巻島家文書

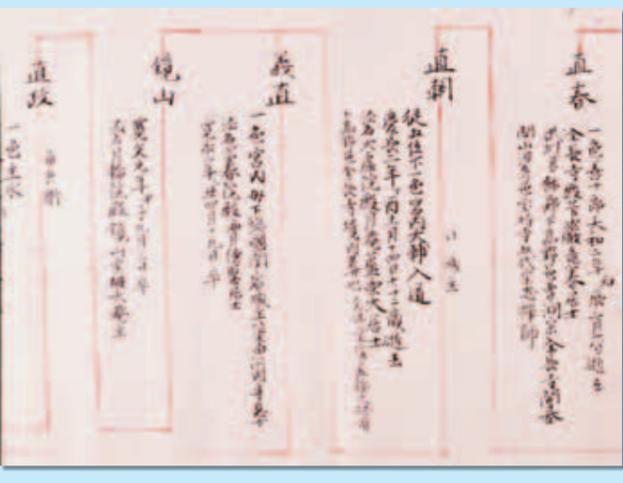


安政大地震で権現堂堤が被災したことや、その復旧工事が行われたことが分かる古文書（金子家文書）

安政2年(1855)10月2日の未明に発生した大地震の激しい揺れで江戸を水害から守る権現堂堤に大規模な割れ目や崩落が発生したため、それを修復する御普請が行われた。その費用総額は、約5,428両に及んでいる。

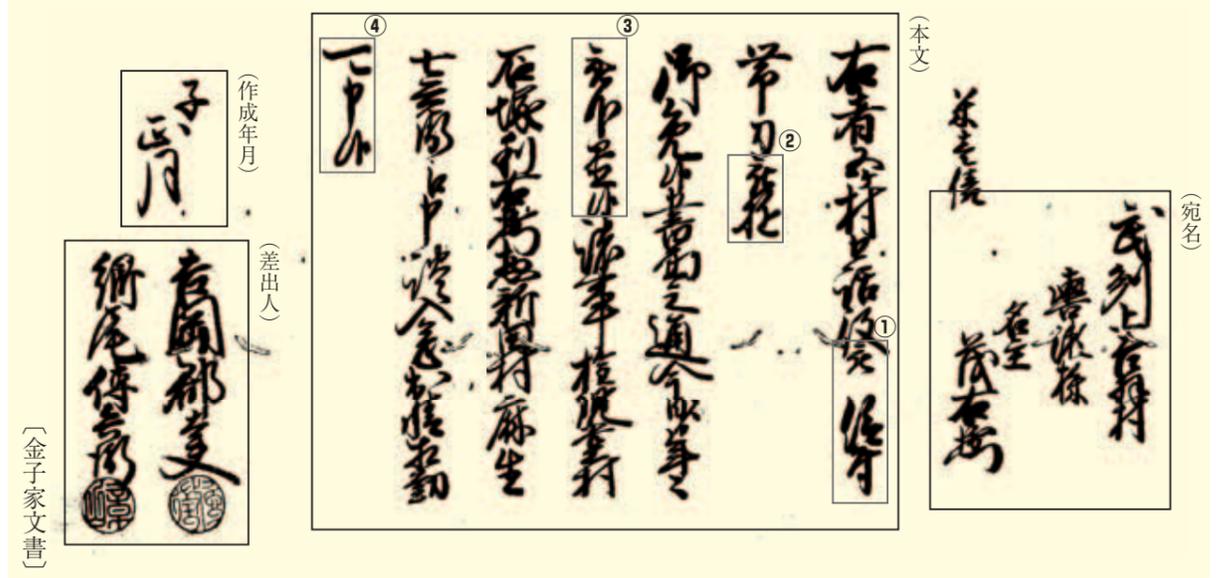


市指定文化財 金子家文書



幸手一色氏の家系を示す系図（新井家文書）

戦国時代から江戸時代初めにかけて、幸手の領主であった幸手一色氏には、いくつかの系図が残されている。ここに掲載した系図は、一色家の系譜をひき、後に安戸村(戸島)に土着し代々名主を勤めた新井家に伝わる「武州天神宮城一色宮内少輔系図」で弘化4年(1847)に書き写されている。



【本文】
 米一俵 右者五ヶ村世話役被^レ仰付^一
 帯刀被^レ遊^二
 御免一候、書面之通、今日^レ年々
 被^レ下置^一候、諸事権現堂村
 石塚利右衛門、惣新田村麻生
 七兵衛江申談、入念出情相勤
 可^レ申候
 子正月
 吉岡郡太夫^印
 郷尾伝兵衛^印

【宛名】
 武州上吉羽村
 轡瀬株
 名主
 茂右衛門
 吉岡郡太夫^印
 郷尾伝兵衛^印

【書き下し文】
 米一俵 右は五ヶ村世話役仰せ付けられ、帯刀御免あそばされ候。書面の通り、今日より年々下し置かれ候、諸事、権現堂村石塚利右衛門、惣新田村麻生七兵衛へ申し談じ、入念出情相勤め申すべく候
 子正月 吉岡郡太夫^印 郷尾伝兵衛^印

🔍 解説のポイント

古文書の中には、漢文を読むように、下から上に返って読む独特な表現が混じっています。これが見えると上達します。

① 元俵
 【被^レ仰付^一】→仰せ付けられ
 【おおせつけられ】
 仰の上の一字分の空白は「開字」といい、相手に敬意を表す。

② 遊
 【被^レ遊^一】→遊ばされ
 【あそばされ】
 「御免」を改行し行頭に置く「平出」は「開字」よりさらに敬意を表す。

③ 下置
 【被^レ下置^一】→下し置かれ候
 【くだしおかれそうろう】

④ 可^レ申候
 【可^レ申候】→申すべく候
 【もうすべくそうろう】

△内容の解説▽
 この古文書は、上吉羽村の領主であった幕府旗本小堀家の役人である吉岡郡太夫・郷尾伝兵衛が、上吉羽村轡瀬株の名主茂右衛門に、武州(武蔵国)五ヶ村の取締り世話役を命じ、帯刀の免許を伝えたものです。また、茂右衛門には、役米として一年に一俵が支給されました。和暦年号はありませんが、開運史料から子年は、文政十一年(一八二八)です。小堀家は、五〇〇〇石の出身級の旗本で茶人・造園家で知られる小堀遠州の末裔です。同家には武州のほか、常州(常陸国)、豆州(伊豆国)にも分散して所領があり、幸手市域の安戸村・円藤内村・権現堂村・上吉羽村・惣新田村が武州五ヶ村と呼ばれました。金子家六代目の茂右衛門はその後も出世を続け、江戸詰を命じられ、勝手向きの厳しい小堀家の家政を支えました。